特集「未来を切り開くコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

勅使河原 可海[1,a)]

近年，政府機関や企業への標的型攻撃に関する事件が，多数報告されている．IPA の報告によれば，2013 年の 10 大脅威のトップに，「クライアントソフトの脆弱性をついた攻撃」，「標的型諜報攻撃の脅威」が挙げられている．また，ソーシャルエンジニアリングの悪用やクラウドコンピューティングの台頭による新たな脅威も出現している．さらに，スマートフォン，タブレット端末の普及にともない，それらの機器を狙った攻撃も続々と現れており，今後ますます増加するものと考えられる．

さらに，ありとあらゆるものがインターネットにつながり，インターネットを介して物と物がつながる物のインターネット (Internet of things) の形態も多く見られるようになり，ネットワーク内に流れる情報がますます多量，多様化するなかで，それらが確実に安全に送受信されることが望まれる．したがって，重要インフラ，制御システム，自動車，情報家電，医療機器，携帯電話など様々な分野において，セキュリティの重要性がこれまで以上に求められている．

本特集号では，発達を続ける ICT の利点を活かし，安全・安心，快適で，人間中心の明るい未来を実現するためのセキュリティ技術を幅広く募集し，理論，プロトコル，アーキテクチャ，ソフトウェアシステムの研究，およびそのアプリケーション，実装例，管理運用，さらに社会科学的考察まで含めた，広範囲のコンピュータセキュリティに関する研究論文を掲載することを目的とした．

46 件の論文が投稿され，途中取り下げが 1 件あり，最終的に 18 件を採択した．レベルの高い論文が選ばれたと考えられる．今年から制定された特選論文制度に基づき，特選論文として秋山満昭氏らの「アカウント情報の能動的な漏洩による攻撃者の活動観測」を選定した．この論文は，開発した観測システムを長期にわたって運用・評価した，新規性と実用性の高い優れた論文である．採択論文の内訳は，セキュリティ基盤技術 4 件，セキュリティと社会 4 件，ネットワークセキュリティ 3 件，危機管理とリスク管理 2 件，システムセキュリティ 2 件，分散システム運用・管理，無線・モバイルネットワーク，アーキテクチャ各 1 件である．全体的に見て，基本方針通りに幅広いテーマからバランス良く採録されており，未来を切り開くセキュリティ技術の論文が得られたと考える．本特集号では，全体のほぼ半数近くとなる英文論文 8 件が採択され，学会のグローバル化として望ましい形になったと思う．

特集号編集にあたって，予定通り発刊することができたのは，編集委員，査読者，学会関係者の多大なご尽力のおかげであり，ここに厚くお礼を申し上げたい．特に，吉岡克成幹事（横浜国立大学），岡本健幹事（筑波技術大学）には取りまとめの中心となって献身的に運営を行っていただいた，心から感謝申し上げたい．

「未来を切り開くコンピュータセキュリティ技術」特集号編集委員会

- 編集長
  勅使河原可海（東京電機大学）
- 幹事
  吉岡克成（横浜国立大学），岡本　健（筑波技術大学）
- 編集委員（五十音順）
  岩村惠市（東京理科大学），越前　功（国立情報学研究所），大東俊博（広島大学），岡本栄司（筑波大学），加藤岳久（東芝ソリューション），菊池浩明（明治大学），齋藤孝道（明治大学），佐々木良一（東京電機大学），四方順司（横浜国立大学），須賀祐治（IIJ），鈴木幸太郎（NTT），高木　剛（九州大学），高倉弘喜（名古屋大学），竹森敬祐（KDDI 研究所），田中　清（信州大学），千田浩司（NTT），手塚　悟（東京工科大学），寺田真敏（日立製作所），寺田雅之（NTT ドコモ），土井洋（情報セキュリティ大学院大学），鳥居　悟（富士通研究所），中西　透（岡山大学），西垣正勝（静岡大学），朴　美娘（神奈川工科大学），本郷節之（北海道工業大学），松浦幹太（東京大学），満保雅浩（金沢大学），宮地充子（北陸先端科学技術大学院大学），村山優子（岩手県立大学），毛利公一（立命館大学），盛合志帆（情報通信研究機構），山内利宏（岡山大学），吉浦裕（電気通信大学），渡邊裕治（日本 IBM）

1 東京電機大学
Tokyo Denki University, Adachi, Tokyo 120–8551, Japan
a) teshiga@isl.im.dendai.ac.jp

© 2013 Information Processing Society of Japan